220 anguste oblonga apice truncata basi acuminata vel acuta circiter 11 mm longa 5 mm lata. Stamina pauca saepe 0. Pistilla vulgo 2 cum stylo glabro flavo-viridescente et ovario viridissimo saepe foliis parvis vel flosculo transformia.

Nom. Jap. Hinagiku-zakura nom. nov.

Hab. Yahiko, prov. Echigo cult. (T. Kawasaki, Apr. 19, 1959——typus in Herb. Nat. Sci. Mus. Tokyo.).

若葉は帯黄褐緑色で野生のものでもよくみられる色である。萼筒は通常ロート形で日の当らない面は淡黄緑色で，やや紅褐色を帯びる。日の当る側は帯紅紫褐色で，時に暗紅紫色または紅赤色を呈する。暗緑色の縦線を有する。萼片は通常 10 枚で正常のもの 5 枚は普通の大きさであるが，その間に 1 枚ずつ計 5 枚の小萼片を有する。これはキクザクラ類では普通にみられる形である。色は黄緑色で部分的に紅紫褐色を帯びるかまたは全体にわたつて紅紫褐色を呈する。花弁は細長くほとんど白色であるが，時にわずかに先端が淡紅色を帯びる。つぼみは微淡紅色である。雄蕊は少なく，花糸は白色であるが後に淡紅色となる。花は二段咲きとなるものが多く，その場合は雌蕊が 1 個の小さい花で置き換えられた状態となる。内側の花の萼片は外側の正常のものが三角形で小さいのにくらべて楕円形でずつと大きい。その萼片は円筒形の萼筒の上端についており，内側には雄蕊を有する。中央に雌蕊 1 個がある。二段咲きにならない花では雌蕊は通常 2 本でしかも多くの場合小葉に変化している。そして原形のままの雌蕊では無毛であるが小葉化している場合は有毛である。図の 5 は最も変化の程度が低くて，花弁が多いほかは原種とほとんど変らない場合である。このように変化の程度は花によつて異る。花弁が非常に多い場合は花が球形を帯びて来て，ダリアなどのポンポン咲きのような感じとなる。

○ナデシコ科の新外来品（水島正美） Masami MIZUSHIMA: *Silene dichotoma*, a new alien.

ヨーロッパ東南部原産の *Silene dichotoma* Ehrhart が北海道天塩国，上川郡下川町の字ペンケのクローバー畑から見出された（1950 年 7 月 11 日，中村勇二氏採集。越後刈羽郡小国町在住の岩野俊逸氏の乾園中にある）。本種は古くから栽培又は帰化しているマンテマ（*S. gallica* L., var. *quinquevulnera* Kock を含む）によく似ているが，白花で花弁が 2 中裂するので直ちに区別出来る。2 叉分岐した花序の基底に有柄の 1 花を着けることもマンテマに見られぬ所である（牧野図鑑 1763 図を参照されたい）。ヨーロッパでもクローバー畑に生えると云うが，北海道のものは多分アカツメクサか何かの種子に混入して輸入されたのであろう。北米にも広く帰化しているので，クローバー種子の輸入先を確めれば伝播ルートを容易に掴めよう。和名を**マンテマモドキ**と新称する。

（東京都立大学牧野標本館）